

信州大学版ムードル (e-ALPS) で用いる補助教材をいかに英語授業に生かすか¹

——英語の前置詞の学習を例にして——

花 崎 一 夫

キーワード：ムードル 補助教材 英語の前置詞 モジュール教材 認知言語学

1. はじめに

信州大学では、2010年度までは現行のカリキュラムにおいて総合英語、TOEIC 英語、アカデミックイングリッシュ、英会話などの英語科目が開講されている。従来までの大学英語教育においては、建前上、高校までに学習するはずとなっている文法や語彙に関しては、すでに習得済みであることを前提として授業が展開されていたと言えるだろう。ところが、近年、大学生の英語力の低下が叫ばれている中で、信州大学においても、基礎的な文法力や単語力が欠如している学生が散見されるようになってきた。一方で、大学における教養教育において英語に費やされる授業時間数は、減りこそはすれ、増えることなどは考えられない状況になっている。²そこで考え出されたのが、本学で活用されている信州大学版ムードルである e-ALPS 上に英語の補助教材を掲載し、それを学生に学習させることで、基礎的文法力や単語力の不足を補うという方法である。これは、文部科学省が唱導している単位の実質化という流れのなかで考えても、今後ますます授業の中で採用されるべきであると言えるだろう。³本論文では、この教材をいかに活用しているのかという点に関する具体例を示すとともに、その教材によって学生にどのような変化が期待され、さらにはどのような成果が得られるのかについて主に論じたい。

2. モジュール教材を活用した TOEIC 英語における実践例

このセクションでは、筆者が勤務する信州大学の TOEIC 英語において実践している取組みについて紹介することとするが、まず初めに、おもに自学自習用教材としてのモジュール教材全般について簡単に説明し、その後、筆者自身が TOEIC 英語のなかでそれをどのように活用しているのかについて論じる。

2. 1. 自学用モジュール教材

ここでは、信州大学の教育改善支援室が作成した文書、モジュール教材の考え方と作り方（2006）をもとにモジュール教材について説明する。一般に、学習者の知識や理解にはバラツキがあり、スムーズな授業運営が難しい場合がある。あるいは授業時間だけで全学習者に必要にして十分な理解をさせるには、時間的制限もあって困難を伴うことも事実である。そこで、当該授業を進める上で必要な事前知識などを自学用モジュール教材、すなわち「ひとつの小さな学習上のまとまりをもって自学できる e-Learning 教材」として提供できれば、学習者にとっても教授者にとっても有益であることは疑いがない。また、理解度確認小テストで、学習者に理解していない部分を認識させる、すなわち気づかせた上で学習させることができれば、学習効果も高まるものと考えられる。そこで、モジュール教材には、理解度確認小テストとして、「学習者が理解していない事項をモジュール単位で何処なのか認識させる小テスト」を添付しているわけである。実際には、理解度確認小テストで学生自身がみずからの理解度をチェックしたうえで、そのテストを解説するモジュール教材を学習するというやり方を推奨している。このような2段構えのモジュール教材を導入することによって、次のようなメリットが生じることになる。(1) 学習者は何時でも何処(家庭)でも学習できる。(2) 自分に不足している点を認識して必要な所を必要なだけ学習できる。(3) 教員にとっては膨大な教材の作成に比べてコツコツと積み上げ易く作りやすく、追加・修正もし易い。次のセクションでは、筆者自身が作成したモジュール教材を具体的にみていくことにする。

2. 2. 自学用モジュール教材の具体例

筆者の担当する TOEIC 英語においては、ほぼ毎時間、TOEIC 攻略に必要な不可欠な文法事項の習得を課題として与えている。ただ、それぞれの課題自体は、高校までの英語学習において当然習得されていることを期待されるものであるが、前述のとおり、必ずしも、信州大学の学生が十分習得しているとは言えないのが現状である。そこで、授業時間外の学習ツールとして与えているのが自学用モジュール教材ということになる。以下、理解度確認小テストを含めたモジュール教材を紹介する。ここでは、文法事項の一つである「時制」の例を取り上げる。

2. 2. 1. 理解度確認小テストの例（時制）

時制 2 文中の空欄に入れるべき語句を選びなさい。

1 私はちょうど今長野から帰ってきたところです。

I () from Nagano.

1 have just returned 2 returned

2 私は財布をなくしてしまった。

I () my wallet.

1 have lost 2 lost

3 最後に君が彼女に会ったのはいつですか。
When () you () her last?

1 did / see 2 have / seen

4 ご注文は私どものウェブサイトが届いています。
Your order () at our website.

1 has arrived 2 arrived

5 彼女は7時までには仕事を終わっていました。
By seven o'clock she () her work.

1 had finished 2 finished

6 彼女はその日の午後にテニスをしたと言いました。
She said she () tennis that afternoon.

1 had played 2 played

7 もし彼女がその山にもう一度登れば、彼女は3回登ったことになります。
If she climbs the mountain again, she () it three times.

1 will have climbed 2 will climb

8 彼女はいつも腹を立てては、ひどいいらだちを表してばかりいる。
She () always () angry and () a lot of irritation. (反復的な動作)

1 is / getting / showing 2 is / gets / shows

9 手伝っていただけませんか。
I () wondering if you could help me. (丁寧な依頼)

1 was 2 am

10 君が帰ってくる頃には、彼は風呂に入っているだろう。
He () a bath when you come back.

1 will be taking 2 takes

11 私は7時から彼に本を読んでやっているのです。
I () to him since seven o'clock.

1 have been reading 2 am reading 3 have read

12 トムが1時間待ち続けていると、彼女が帰ってきた。
Tom () for an hour, when she came back.

1 had been waiting 2 waited 3 have waited

13 65歳までに彼女は30年間払い続けて5万ドル貯金したことになる。
By age 65, she () payments for thirty years and will have deposited \$50,000.

1 will have been making 2 will have made

この理解度確認小テストで取り上げている事項は、時制のなかでもとりわけ完了時制についてであるが、学生に対して、実際の授業に臨む前にこのテストをやらせることにより、まずは学生自身が英語の完了時制について自分自身が理解しているのかを確認させている。そして、理解が十分でないとの認識に至った場合には、以下で紹介す

る完了時制について説明したパワーポイントを学習することによって、授業に臨む前に完了時制についてある程度まで習得している状態になるわけである。

2. 2. 2. 文法事項を説明したモジュール教材の例（完了時制）

ここでは一例として、筆者自身が作成した、文法事項を説明したモジュール教材の例を一部掲載する。前述した理解度確認小テストを解説する形になっているのが特徴である。

現在完了時制

1. I (**have just returned**) from Nagano.

ちょうど長野から戻ってきて今は松本にいます
という意味合いをだすため、現在完了が使われています

ポイント

現在完了(**have [has]+過去分詞**)

過去に起こった動作・状態を**現在と結びつけて述べる**時に使います



ex.) I have lost my wallet.

「財布をなくしてしまったので、今は財布がない」ということを怒っています

過去完了時制

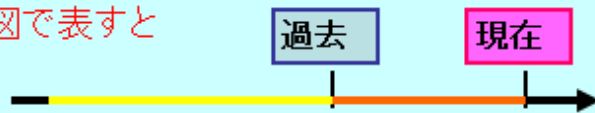
4. By seven o'clock she (**had finished**) her work.

ポイント

過去完了時制(**had+過去分詞**)

- ・ 現在完了が理解できていれば簡単

現在完了をⓧで表すと



でしたよね。

過去完了は時間がずれただけです。上ⓧ↑



過去のある時点までに動作が完了している
場合などに使われる

過去完了時制

5. She said she (had played) tennis that afternoon.

過去のある時点までに 動作が完了している
⇒ 過去完了

練習問題

□ 前の日に買った車をなくしてしまった。

I lost the car I (**had bought**) the day before.

□ 駅に着く前に電車はもう出発してしまっていた。

The train (**had**) already (**left**) before they (**arrived**) at the station.

未来完了時制

6. If she climbs the mountain, she (will have climbed) it three times.

未来のある時点までに 動作が完了している
⇒ 未来完了

ポイント

未来完了 (**will + have + 過去分詞**)

「未来のある時点での動作の完了などを表すもの」

ex. My parents **will have been married** for 20 years on next Friday. (私の両親は来週の金曜日で結婚して20年になります)

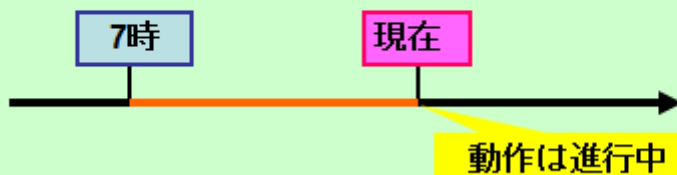
現在完了進行形

10. I (**have been reading**) to him since seven o'clock.

現在まである動作が続いている
→現在完了進行形(**have[has] been + ~ing**)

解説

7時に読み始めて今も読んでいる



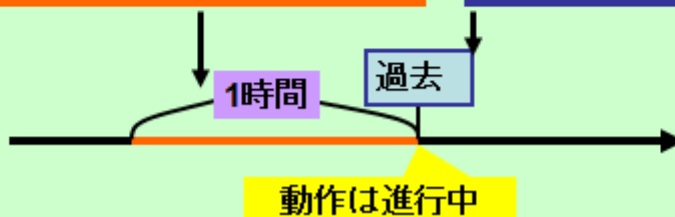
過去完了進行形

11. Tom (**had been waiting**) for an hour, when she came back.

過去まである動作が続いている
→過去完了進行形(**had been + ~ing**)

解説

Tom had been waiting for an hour, when she came back.



以上の教材を活用した授業は、数年前から信州大学で実践している。上述したように、この教材は授業時間中に活用することを目的として作成したわけではなく、あくまでも、たとえば TOEIC 英語の中で取りあげる文法事項として「時制」の項目があった場合に、あらかじめ学生には当該授業に臨む時までに学習してきてもらうことを前提としたものである。こうすることで、対面授業をより効率的に進めることが可能になると同時に、進度の遅れている学生に対するフォローもスムーズにできるようになったということが言える。また、授業中に、当該文法事項の初歩的な事項から解説

をすることがないため、授業では、ある程度補助教材の内容を学生が学習済みであることを前提とし、さらに高度な事項について解説することも可能になるわけであるし、実際にそういう授業を展開した。さらに、学生による授業改善アンケートの一部を見ても、「文法説明のために使われたパワーポイントが非常にわかりやすく、嬉しかった。いままで全く理解できなかった英文法が感覚的に理解できたときの驚きは強く印象に残っている。」といった反応からもわかるように、この教材を通じて、学生があらためて TOEIC 英語に必要な文法事項の理解度を高めたことは間違いないと言えるであろう。また、今まで文法が苦手であったという学生に話を聞いてみても、認知言語学に代表される英語学の知見を取り入れた教材は、常にある言語形式には意味があるという前提のもとに、なぜある形式が用いられているのかに焦点をあてて説明がなされているので、文法知識を体系的に学ぶことができ、よかつたし、「なぜそうなるのか」という疑問も解決することができ、ひいては文法力の底上げにつながったという声が多かつた。以上のことから、モジュール教材を用いた授業を展開することは、単位の実質化という表面的な目標を達成するのみならず、スムーズな授業運営を通して、最終的には学生の英語力の向上にもつながっていると結論付けることができるであろう。以下のセクションでは、このモジュール教材のさらなる可能性を、英語の前置詞に関する教材を取り上げて論ずることとする。

3. 英語の前置詞に関するモジュール教材

前述したように、モジュール教材の利点は、どのような細かい事項であっても、その性格上、教材として活用することが可能であるという点である。つまり、授業時間外での学習が前提となっているため、授業中の限られた時間を割いて説明することが難しい事項に関しても教材化することが可能になる。このような利点を活用し、「英語の前置詞」という、TOEIC 英語をはじめとした英語の授業時間内で、まとまった時間を割いて解説することが難しいテーマに関しても実際に教材を作成し、その教材を本学の英語講座の中で活用することを実践している。このセクションでは、実際に2010年度に作成した教材を紹介し、さらに、モジュール教材を活用した英語教育の可能性について論じたい。

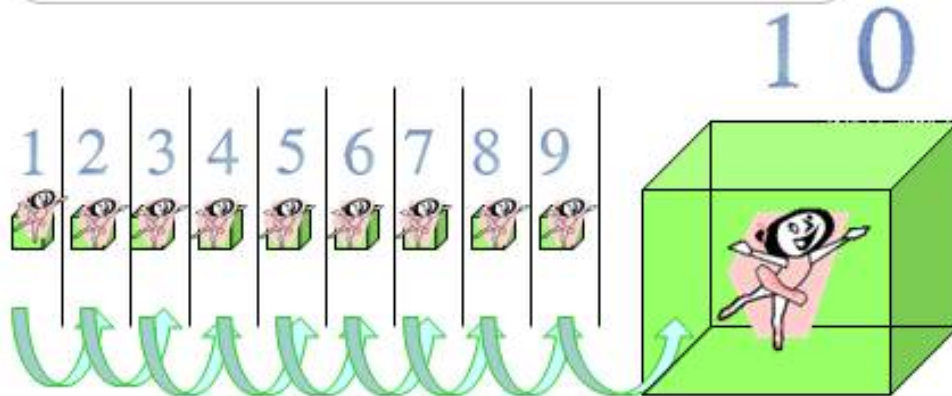
3. 1. 英語の前置詞に関するモジュール教材の例

このセクションでは、一例として英語の前置詞である *to* と *until* について取り上げた教材を紹介する。

toとuntilの例文 - toを『空間』でとらえる

Let's count **to** ten. (10まで数えよう)

このように数を数えていくことで、
次の数字の空間に移動していると考えます。
つまり、「10まで数えよう」というと
「『10の空間』まで移動する」と考えることができます。



問題 (toとuntil)

次のカッコにはuntilとtoの
どちらの前置詞が適当か考えて見ましょう！



I worked from morning () night.
朝から晩まで働いた。

正解は・・・

from A to B



「AからBまで」のはず！！

なぜ until??

a. until

b. to



toとuntilの例文

untilについて例文を集めてみました。

untilの後ろには『時間』について書かれていることに気づきましたか？

Until next week, it's goodbye from me.

来週

From the start until now

今

His talent as a singer didn't emerge until recently

最近

Don't open the door for anybody until I get there.

到着の時間

The terrible news did not reach me until just this morning.

今朝

Until we solve this problem, there can be no peace on earth.

The opera isn't over until the fat lady sings.

問題を解決する時間

歌っている時間



toとuntilの例文 - toを『空間』でとらえる

この2つもtoを『空間』として考えます。
では、どのように考えればよいのでしょうか？

to the limit (限界まで)

drop to a dangerous level

(危険レベルまで落ちる)

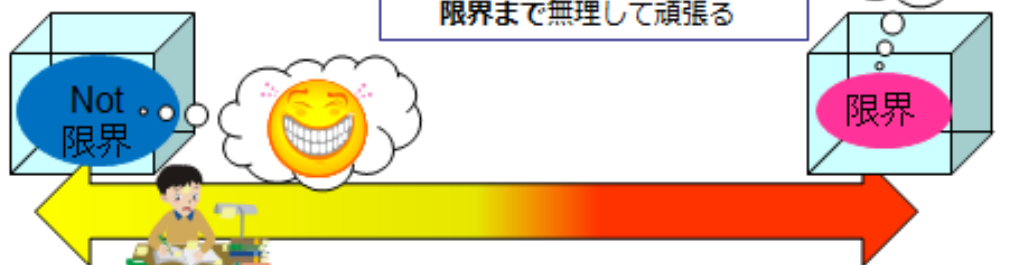


次は解説にはいります。
その前にこれまで考えてきた『to=空間を表す』を踏まえながら、
この2つの例文について考えてみましょう！！

toとuntilの例文 - toを『空間』でとらえる

to the limit (限界まで)

push oneself to one's limit
限界まで無理して頑張る



あなたは「限界でない空間」の中にいて、
そこから「限界である空間」に移動すると考えます。

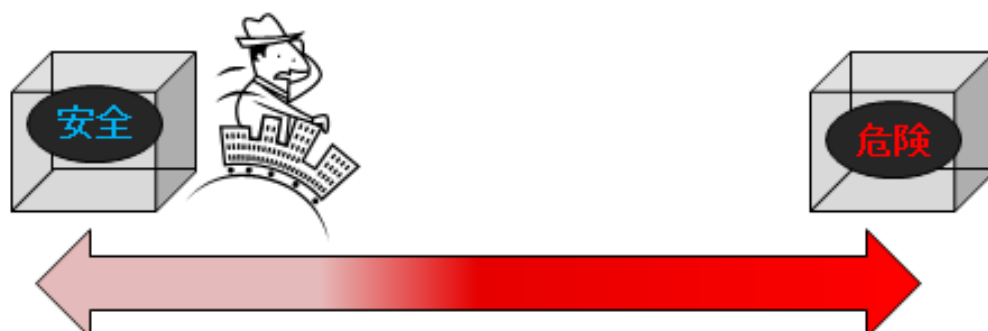
I pushed myself to my limit.
私は限界まで頑張った。



toとuntilの例文 - toを『空間』でとらえる

安全or危険なレベルにあることを空間として
とらえます。
安全なレベル(空間)から危険なレベル(空間)に
移動すると考えられます。

drop to a dangerous level
(危険レベルまで落ちる)



toとuntilとの違い①

さっきの問題はuntilが正解でした。
なぜでしょうか？



until

to

時間

空間

I worked from morning () night.
朝から晩まで働いた。

night(夜)は空間ではなく、『時間』
そのためここでは untilを使います。

a. until
b. to

toとuntilの歴史

till (OE 800)
南部方言

さらに1300年頃、『時間』の「マデ」をより強調するために、「マデ」の意味をつun-をtillに合体させたuntilが登場します。

to (OE 893)
北部方言



till

to

もともとtillとtoは「マデ」という意味を持っていた。しかし、北部と南部地方が接触するとふたつの言葉はお互いに独自の意味を持つようになりました。“すみわけ”という現象が起こりました。

until

時間

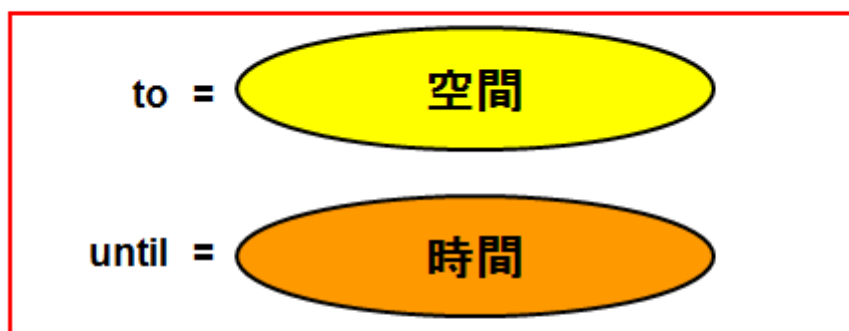
空間

時間(強調)

+ un- (as far as)



toとuntilのまとめ



いま使われている例文から見ても、歴史的事実から見ても
toは空間の意味を持ち**until**は時間の意味を持つことができます
これによって、**to**を使うか、**until**を使うかをある程度決めることができます。



以上教材の一部を抜粋したが、これからわかるように、この教材は、単に2つの前置詞が使われている例文を列挙したのではなく、必要に応じて英語の歴史的な事実、すなわち英語学の知見を利用して教材が作成されているのが特徴である。すなわち、**to**と**till**の間で競合が起こった際に、**till**は接頭辞として**as far as**の意味の**un**を付けて**until**となることで、主に時間の意味で使われるようになり、**to**は空間の意味で使われるのが主流になった、つまり、前置詞の棲み分け（詳しくは花崎・加藤（2009）を参照）が生じた、という説明を与えている。このように、文法事項を丸暗記させるのではなく、言葉の意味の変遷にまで焦点をあて、論理的に解説するのがこの教材の特徴にもなっている。

3. 2. 英語の前置詞に関するモジュール教材の効用

非常に基本的なことであるが、英語の学習効果を高めるためには、まず英語そのものに対する学生自身の関心を高めてもらうことが必須となる。いままでの英語教育、とりわけ文法事項の教育を考えてみると、学生に丸暗記を強いるものだったり、論理的に書いているつもりが間違った後付けの論理に陥っているものが多かったことは否定できない。⁴そこで、英語学の知見をふんだんに取り入れたモジュール教材を作成したわけであるが、例えば**to**と**until**の歴史的な事実を提示することによって、学生の理解度も高まると同時に、英語そのものに対する関心もより高まることは想像に難くない。実際、2010年度のTOEIC英語の受講生に対して行った「学生による授業改善アンケート」においても、筆者の授業の良い点として、教科書の他にも色々と教材がe-ALPSに掲載されていることや授業外での学習について設定していることなどが学生の意見として挙げられており、モジュール教材が学生の英語学習のモチベーション

ョンを高めるうえで重要な役割を果たしていると言えるだろう。今年、前置詞のモジュール教材としてこの他にも in と on に関するものを作成したが、今後もこのようなモジュール教材の作製を続けることをとおして学生の学習意欲の向上をはかり、大学の英語教育全体に貢献することを目指したいと考えている次第である。⁵

注

¹ ムードルは、オープンソースの eラーニングプラットフォームであり、主に教育者が、学生のオンライン学習を助けるため、オンライン学習課程（コース）を作成することを可能にするパッケージソフトであるが、信州大学ではそのシステムに対して e-ALPS という名称を与えて運用している。

² これには、財政的な問題からくる、教える人材の確保が難しいという現状も少なからず影響を与えている。

³ 我が国の単位制度は、授業時間外に必要な学習等を考慮して、45 時間相当の学習量をもって 1 単位と定めている。したがって授業時間だけの学習で単位をだすのではなく、授業時間を含めて少なくとも 4 5 時間の学習をすることが前提で単位を認定するというのが、いわゆる単位の実質化ということになる。

⁴ たとえば、大西（1996）に前置詞 on に関する記述として以下のようなものがある。The house is on fire.における on fire は「火」とくっついているイメージが「火事になっている」という意味を生み出すと述べているが、実際にはこの用法は、on が現在の in の意味で使用されていた名残であり、in と on の棲み分けが生じた後も、いわば慣用句として残ったという説明のほうが正しい。つまり、このように、歴史的な事実を無視して、後付的な理屈をこねまわすのは英語教育上も好ましくないとと言えるであろう。

⁵ モジュール教材の作成は科研費基盤（C）19520482 の助成を受けている。

参考文献

花崎 一夫・加藤鉦三. (2009) 「前置詞の棲み分け—in と on を中心にして」『英文学研究』1. 233-242.

大西泰斗・ポール・マクベイ (1996) 『ネイティブスピーカーの前置詞』研究社.

信州大学教育改善支援室. (2006) 『モジュール教材の考え方と作り方』

(信州大学 全学教育機構 准教授)

2011 年 1 月 4 日受理 2011 年 2 月 15 日採録決定